

# 1988年核データ国際会議準備小委員会 第1回会合議事録

日時 昭和59年7月16日(月) 13:30~17:00  
場所 原研本部第6会議室  
出席者 木村, 秋山, 菅原, 川合, 五十嵐, 菊池

NEANDC第24回会合において, 1988年か1989年に核データの国際会議を日本で開けるかどうかを検討し, 次回NEANDC会合までに可能かどうかを知らせて欲しい, という議長からの要請があった。これを受けて, シグマ委員会本会議で上記6名がこの問題を検討し, 開催する場合に必要な諸事項を考えるための小委員に指名された。

昨年東京で開かれた遮蔽国際会議及び一昨年のAntwerp会議の規模などから, 300~400名の参加が予想されること, 会場としては東京, 京都, 東海が考えられること, 時期は1988年5月が良いこと, などの意見が出た。

テーマの範囲は, 核構造データ, 高エネルギー中性子核反応データから廃炉, 保健物理, 損傷データなどまで挙げた。これらはプログラム委員会を置いて検討してもらうことにし, 一案として以下の人々が候補に挙げた。

五十嵐 : 総括  
木村 : 測定, ドシメトリー, Thサイクル  
秋山 : 崩壊熱  
菅原 : 炉物理, 炉工学, U-Puサイクル  
川合 : 核データ評価, 遮蔽  
菊池 : 核データ評価, ベンチマークテスト  
馬場 : 核化学  
喜多尾 : 核構造, 医学  
水本 : 核反応  
上坪 : 核反応  
関(泰) : 中性子工学  
梶山 : 中性子工学  
松浦 : 廃炉  
橋爪 : 荷電粒子反応

これらの人々は準備委員の候補でもある。

会場の選定、交渉などは物理部事務長にお願いすることになる。これらを含め、国協室、企画室の協力も必要になる。プログラム委員会とは別に組織委員会を置いて渉外等を担当してもらう必要がある。

大よそのタイムスケジュールを以下に示す。

項目 \ 年度	1984	1985	1986	1987	1988
準備・プログラム委					
L. C.	準備委		プログラム委	ラクト アブ 作成 プロ グラム	
I. C.					
組織委					
L. C.			1st ラサー キユ	予約 会場 ラサー キユ	2nd
I. C.					
INDC					
NEANDC					
予算要求			準備費	概算	実行
					開催

準備委員会は立案を担当し、プログラム委員会及び組織委員会で具体化し実施する。次回は8月23日(木) 13:30～、東京原研本部で行なう。